

発表者氏名： 富永 栄治

所属学校： 中学校

派遣職種： 理数科教師

派遣国： エチオピア

派遣先： ウデラド高校

タイトル： エチオピアの教育と現職隊員としてできたこと

キーワード： 理数科セミナー、開発教育ワークショップ、ダンス（体操）、原爆

発表要旨：

エチオピアはアフリカでもエジプトと並ぶ歴史と伝統の国であり、唯一独立を守った国としても名高い。しかしその反面、貧しさは想像以上であり、植民地支配の宗主国の影響が無かったため、近代化が遅れ最貧国の一つとなっている。協力隊派遣の歴史は古いが、教育分野での派遣は少ない。しかし、どこの国も事情が同じように初等教育の普及や高等教育の大衆化もあって学校数・教師数の不足に悩んでいた。しかし、エチオピアはその改善のために『プラズマテレビ』による放送を用いた授業方法を導入する。言わば教育番組を授業で用いるようなものであるが、これが一方的な授業展開、教師の指導力の低下につながり、生徒の理解力・考える力の低下に拍車のかかる問題点があるように感じられた。

私は首都アジスアベバの高校で数学教師として派遣され、授業やクラブを担当するほかに、週末を利用して各地域をまわり他の理数科教師や同僚と協力して「理数科セミナー」を開催し、子ども達に考えさせたり・実験したりする授業の場を設けた。しかし、悲しいことにエチオピアの高等教育は受験のための偏った暗記教育であり、私達が理想とする授業普及は困難を極める。しかし、先輩隊員から続いた努力は最終的に教育省幹部を動かし、教師向けセミナー開催にまで至ったし、今後の理数科教師派遣の方向性も整ってきた。また、これらの他にも「ヒロシマ・ナガサキ」を題材にした原爆セミナーや、体育隊員等と協力して現地のダンスを元に作成した「エチオピア体操」の普及活動、そして協力隊員が日本に復帰後の社会還元を効果的に行うためにどうすればいいのかを学び合った「開発教育ワークショップ」など、苦勞しつつも充実したエチオピアでの様々な活動を報告する。そして、帰国後の現在は中学校の教師として復帰している。学級担任としてエチオピアの赴任当時と同じように新たな環境で挑戦する毎日である。

